

春季大会 50 チーム 技競う

仙台市ミニテニス春季大会が平成27年4月5日、宮城野体育館で行われ、市内外の50チームが1〜3部で熱い戦いを繰り広げた。

開会式では幸運にも1番くじを引き当てた荒浜Bチーム成田幹夫選手写真左は「試合は楽



しく、勝っても負けても胸を張れるよう全力でプレーを・・・」の宣誓に、会場からは大きな拍

手とやる気が漲っていた。

試合は年間成績による3部制、部ごと2つのブロックに分かれ予選4試合を戦う特別リーグ戦、ブロック1位同士が決勝戦を行う。

3部 優勝六郷

六郷2―1遠見塚B、接戦を制した六郷、優勝へ大車輪の活躍、写真



右から田中恵美子、堀口洋子、吉田晶子の3選手。

2部 優勝

TNB・A



1部 V 荒浜A



TNB・Aは3-0で七郷Bに圧勝若い力が爆発した。TNB・A チーム、写真左から佐藤祐恵、安藤芳樹、島貫真史の3選手。

荒浜A 2-1 ミント A 接戦を制し連勝記録を伸ばした荒浜Aチーム、写真左から中澤友祐、中澤理恵、菅野儀仁の3選手



写真右、熱い戦いが終わり、互の健闘をたたえ合いながら笑顔でハイタッチするアルファーチームと背中七郷チーム。写真左、親子でプレーを楽しむ七郷チームの佐藤翔、喜代美選手。
(仙台市 渡辺 勝利)



審判員資格取得講習会

仙台市ミニテニス協会の公認審判員取得講習会が平成27年5月2日、仙台市若林体育館で開かれた。講師は、日本ミニテニス協会公認指導員・審判員の阿部勝彦氏は理論、相原義昭氏は実技をそれぞれ担当した。



講習会には、64人のミニテニス愛好者が受講、午前の理論は（競技規則）について、阿部勝彦講師、写真右から、サーバーの失ポイントやプレー中の失ポイント・審判員に対する講義権など等詳しく説明があった。質疑応答も活発に行われ、主審、副審、線審の明瞭な判定の重要性を実感したようだ。

午後の実技は、相原義昭講師、コート設営から始まり審判は正確に判定し、プレーヤーに安心感・信頼感与える明瞭なコールやハンドリングが大切と説明があった。



（仙台市 渡辺 勝利）

ミニテニス特有の技術と楽しさを知っていただくことを目標に、5月16日、若林体育館と合同の講習会を行った。若林体育館高橋浩二館長 写真左は「日頃か



ら当体育館をご利用いただき感謝しております、本日の講習会でしっかりと技術をマスターされ、各種大会で発揮して頂ければ幸いです。・」と挨拶。続いて講師の相原義昭さん写真左は「ボールは



平成27年度 実技講習会



自主的に実技の指導を戴いた荒浜チーム菅野儀仁さん、一流選手のご指導に参加者は大満足の様子だった。感謝・

30グラムの直径12センチ軽くて大きなボール、それなりのパワーとスピンの重要・・・」などの説明があった。講師補助には、日本ミニテニス協会公認指導員・審判員である、連坊チームの後藤義雄さん、小野寺章さんと協会理事が行った。

グリップの握り方や構えの姿勢、フットワーク後、テイクバックやフォロースルー上半身のひねり等が重要と説明、続いてサーブの打ち方やドライブスマッシュ、トップスピンのかけ方など等やってみせるやらせるの反復で行った。TNBの加藤真紀さんは「テイクバックから体幹を使った思い切りこすり上げるスマッシュは一番の収穫」と流れる汗を吹きながら語った。

硬式テニス経験者の遠見塚 佐々木正義さんは「ボールが軽いのでパワーの必要性を実感した。トップスピンをかけてバシッと決まった時気持ちいいですね」と笑顔を見せた。

写真左はドライブサーブの練習風景



後半は試合形式で1日学んだ。

(仙台市 渡辺 勝利)

猛暑の中熱戦展開



仙台市ミニテニス協会夏季大会が7月11日、仙台市体育館で開かれた。土曜日なので参加率が懸念されたが、多くの愛好者が参加盛会に開催された。



開会式では、写真左、木村勝好参与は「夏本番となり厳しい暑さがつづいておりますが、こまめの水分補給で熱中症対策を心がけ上位目指し頑張ってください」と激励のご挨拶があった。

続いて、古城Bチームの佐藤隆一、畠山淑美の

両選手写真左は「暑さ対策をしつかりと、身に



つけた技術を駆使し楽しくプレーを・・・」との宣誓に、会場は温かい雰囲気にも包まれた。大会は、3部制、各部2つのブロックに分かれ上位1チームが決勝に進出する。1部は荒浜Aが蒲町を破り優勝。左、優勝に貢献した荒



浜Aチーム、松浦洋美選手のスマッシュと後ろ中澤千晶選手。

2部は、TNB・Aが西山Aにストレート勝ちした。写真左、優勝したTNB・Aチーム。佐藤淳監督を中心に破壊力抜群の若手両選手



写真左上、沖野2-1六郷を接戦で制した写真中央、小野寺心選手は「市の公式大会は初優勝、すごい日になった次大会も頑張ります・・・」と目が輝いていた。



協会役員理事の皆さん



斎ひろ子競技委員長と高山千代子競技委員



第4回

全国 M・T 親善仙台大会

3・11の震災復興を機に開催した全国ミニテニス大会は平成27年8月9日、仙台市体育館で開かれ、全国のミニテニス愛好者50チームが参加いただいた。写真左は、1年ぶりの再会に話



もはずんでいた。

開会式では、仙台市民局文化スポーツ部長、スポーツ振興課文屋健課長、写真左は「熱中症対



策を専一に、プレーを通じて友情の和を...」とご祝辞。続いて、写真左、埼玉県ミニテニス協



会の森美智子・平林美由

紀の両選手は「余力を残しつつも、全ての技を駆使し全力で戦います...」の宣誓に、会場はやる気が漲っていた。

試合は、6ポイント2ゲームマッチ。予選ブロック毎上位2チームが決勝トーナメントに進出する。

プレーは予選からヒートアップ、強烈なスマッシュの応酬は観衆を魅了した

A部門 V 秋田愛好会

写真左 秋田愛好会



A部門決勝戦は、秋田愛好会 48 B は、1勝1

敗1分けとなり、SR戦となった。トスで48 Bが先手を取り、さすが一流選手、無難に一回り終えての48 B 庄子雄大選手のサーブが僅かにゲームセット。

B部門 優勝 mix・オレンジ



オレンジ2-1月組、

レベルの高い攻防に応援団から幾度となく歓声上がる。そんな緊迫した雰囲気にも、コート上では選手たちの汗と笑顔が飛び交っていた。閉会式では、鈴木孝一

副会長は「本大会の趣旨をご理解いただき、遠方からの多くの参加に感謝」と挨拶があった。



決勝戦進出を目指し、卓越したスピードに加え広い視野から繰り出す多彩な攻撃の選手たち。

「今大会も年代を超えて楽しみを分かち合える多くのミニテニス愛好者が集い、出会いや触れ合い、プレーを通じて気持ちのいい汗を流すことにも意義があるのでは」と実感した。

(仙台市 渡辺 勝利)

第27回 スポ・レク・フェスタ'15



写真上 JOY チーム佐々木悠亮選手は、チームワークをモットーに楽しくプレーを・・・との宣誓に会場は温かい拍手に包まれた。



写真左は、連日の猛暑日水分補給はこまめにとり熱中症対策は磐石に、プレーを通して更なる親睦と友情の和を・・・とご祝辞があった。

仙台市若林区民まつりの一環として行われたミニテニス大会が8月30日、若林体育館に愛好者46チーム330人が集い開かれた。開会式では、若林区民ふるさとまつり実行委員長の平間敏春氏写真左は、連日の猛暑日水分補給

試合が終わわり、互の健闘を称え合いながら笑顔でハイタッチする選手たち。



大会は応援もヒートアップする。この日も手に汗握る好試合が随所に見られた。

1部 優勝 連坊A

連坊A 2-1 蒲町、接戦を制した戸嶋辰夫選手は「一致団結し、あきらめないで戦い優勝できた」と滴る汗を拭った。

写真左 惜敗した蒲町

チーム、平塚翔太選手は「強い相手に全力でプレーできた。いい経験にした」と言い雪辱を誓った。

2部 優勝 ミラクルK

2-1の接戦で富沢チームを破り初優勝したミラクルK 写真左。



手たち。写真左。

山路正志部長と森田光選手写真中央は「創部3年、やっと優勝でき嬉しい。日頃の練習に精進



3部 優勝 六郷

六郷2-1 遠見塚B 写真左 優勝した六郷



写真右から、渡辺暁・高橋謙一・堀口好道の三選手は「厳しい決勝戦だったが、優勝できてホットしている」笑顔を見せた。

選手の皆さん「試合で対戦した方々ときとつきにあつたとき笑顔で話ができるから」そんなミニテニスの心で、これからも一緒にこの生涯スポーツを続けましょう。
(仙台市 渡辺 勝利)

し1部昇格を目標に頑張る」と口をそろえた。

青葉区ニュースポーツ 研修会 『推進委員協議会』

青葉区スポーツ推進委員協議会は平成27年9月8日、柏木市民センターに52名の先生方が参加され「ニュースポーツミニテニス」の記録・実技・審判などを学んだ。

開会式では、青葉区スポーツ推進委員協議会 大林一信委員長 写真左は「平成27年度の研修

会に参加いただき感謝・・・理論・実技をしっかり学び、地域のス



スポーツ振興に寄与いただければ幸い・・・」とご挨拶があった。



概略のミニテニス誕生の経緯について説明、続いてラケットの握り方、打つための基本動作、テイクバック・ストローク・スライス・サーブ等の理論、対戦票の記載についての説明があった。写真左 受講の先生方。

実技では、脚力・すばやくボールの目的地への移動、ステップワーク・正確なポジションに入るための微調整、フットワーク、サーブやフォア・スライスの打ち込みを行なった後13チームがAとBコートに分かれ

試合形式を行なった。写真左



A氏は「見るのとするのは大違い、フットワークとパワーが求められ

る、ハマリそう」と笑顔で話してくれた。Bさんは「思ったところにボールがいつてくれない、スピンが大事かも」と語った。

サーブからレシーブまで全てワンバウンドのプレー。ボールは直径12センチ重さ40グラム、軽くて大きい、それなりにフットワークとパワーが求められる。だから若者にも人気がある。



写真 さすが推進委員、閉会式でも不動の姿勢。(仙台市 渡辺 勝利)

M & L 大会

H27年9月20日
宮城広瀬体育館



菊地明子さんは「今日はいろいろな方々とペアを組んでの試合とっても楽しかった」と語った。

メンズ5チーム、レディース5チームの団体戦を行なった。チーム編成は競技委員会がバランスよく作成、各4試合を行い、和気あいあいの中にもレベルの高いプレーや珍プレーに応援団からは幾度となく歓声が上がった。そんな雰囲気にも、コート上では選手たちの汗と笑顔が飛び交っていた。

男子は3チームが3勝1敗で並び得失ゲーム率でDチームが優勝した。女子はIチームが4戦全勝で優勝を手にした。その後執行部の配慮で混合戦を行い、公式戦では体験することができない経験に参加者は大満足の様子。

大会のバツテングにより10チームと少ない参加だったが、選手たちの躍動感あふれるプレーと笑顔が素敵だった。



優勝した女子チーム



優勝の男子チーム



(仙台市 渡辺 勝利)



好プレーの選手達

48チーム 349人 熱戦展開



仙台市ミニテニス協会は11月1日、仙台市青葉体育館で秋季大会が開催され、年代を越えた選手たちは、出合いふれあいプレーを通して心地よい汗を流した。

写真左 やまがたF 今野高志・宇野ひろ子選手は「日頃の練習の成果を發揮し正々堂々とプレー・・・」の宣誓に会場はよっしゃーのやる気が漲っていた。

写真右 1部しろいしー七郷Aチームの手に



汗する攻防に応援団から惜しめない声援が飛び交っていた。

写真左 吉成ー遠見塚



の決勝戦、右から二人目吉成チームの濱田淑美さん「8対2とリードしながら弱点され悔しい」と拳を握った。

結果

1部 荒浜 B 3 |

0 連坊 A

2部 ミント B 2

| 1 TNB・A

3部 遠見塚 B 3

| 0 吉成

今大会も盛況だった。(仙台市 渡辺 勝利)

仙台市ミニテニス協会の冬季大会が平成28年1月11日、仙台市体育館で開催した。

開会式では、遠見塚チーム、写真右から菅野幸枝・遠藤陽子・佐々木未佳子の3選手は「練習の



成果を発揮し美味しいお酒を飲めるよう優勝目指して頑張ります」の宣誓に会場はあたたかい拍手に包まれた。

今期最後の公式大会で3部制の昇降格が決定するとあって、何処のチームもやる気が漲っていた。

寒さ吹っ飛ばす熱戦 エントリー52チーム



大会は予選からヒートアップ、フルセットにもつれる試合が続出、個々の実力もアツプ手に汗する攻防が続いていた。

写真上 大和チーム、荒木栄之進選手の強烈なサーブ、レシーブ側ミントチーム。

1部 荒浜B2-1

蒲町 1対1でむかえた男子ダブルス戦、善戦したものの惜敗した。蒲町、阿部康太・平塚翔太の両選手は「相手の早いペースに巻き込まれ、修正できなかった」と口をそろえた。

2部 TNB・A3

10 富沢

優勝したTNB、加藤真紀選手は「とってもいい日になった、これからも練習(打ち込みに精進したい)」と流れる額の汗を拭いた。富沢、一条ゆかり選手は「やっぱり優

勝がしたい。次戦はもっといいプレーができるよう頑張る」と意欲をみなぎらせた。

3部 沖野B3-0

国見ヶ丘C

写真左 中央 小野寺心選手は「優勝の言葉が



現実となるとは思わなかった・・・最後まであきらめないでよかった」と満面の笑顔でかたつた。

今回も戦いは激しく・ドラマあり・笑いありで思い出に残る大会だった。

(仙台市 渡辺 勝利)

仙台市ミニテニス協会 平成28年度に向けて 説明会



平成28年2月7日(日)若林市民センターを会場に、説明会・懇親会が開催され、7協会33団体が出席 平成28年度に向けて意思統一が図られた。

相互審判、相互運営を一貫して育んできている大事な説明会、各協会からは会長、理事長、団体からは部長や事務長が出席、平成27年度大会運営においては皆様のご理解とご協力により滞りなく推移しており、特に復興元年を機に開催した全国親善仙台大会も成功裏に開催され、出合いふれあいを通じて人同士の繋がりを一層深いものにした等の挨拶があった。

つづいて丹野克之理事長から、部制の昇降格、会員の登録、大会日程、大会要項など等平成28年度にむけて、8項目を丁寧な説明があった。

出席者もメモをとりながら聞き入り、建設的な意見や要望など、将来に期待のもてる有意義な説明会だった。



説明会后恒例となった懇親会が開催され、各協会やチームの紹介やピーアールに会場は盛り上がった。特に、やまがた協会の田中紘子会長写真左は「28年度に(らフランス杯)を開催し大会終了後温泉で懇親会・・・」のPRに是非参加したいとの声が飛んだ。会場は和やかな雰囲気につつまれていた (仙台市 渡辺勝利)

平成 27 年度・青葉区学区民体育振興会 全体研修会 種目（ミニテニス）

「ニュースポーツ」「ミニテニス」研修会が3月26日、広瀬体育館を会場に、青葉区30学区民体育振興会から多くの方々が参加され盛会に開催された。



開会式では、写真右 青葉区学区民体育振興会会長 川島兵介氏氏は「高齢化がさげられる昨今、勝負にこだわらない生涯スポーツが人気を得ている。今日はミニテニスをしっかりと学び、生涯スポーツのひとつとしてとりあげて頂ければ幸い・・・」と挨拶があった。

写真左 仙台市スポーツ推進委員理事長の大林一信さんは「ミニテニスは若者から高齢者まで人気のあるスポーツしっかりと学んでいただきたい・・・」と語った。



写真上 最初に仙台市ミニテニス協会 阿部勝彦審判長から競技規則について簡単な説明があった。「コート」の規格・試合形式・ゲームの勝敗・サーブの方法・審判員の心得・ゲーム用語の解説」など歯切れよくわかりやすい説明だった。

続いて、仙台市スポーツ推進委員 濱田淑美さんの指導で準備運動を行なった後、実技に入った。ラケットの握り方やスイング、スマッシュの打ち方やドライブサーブの打ち方など等の後、4コート 4グループに分かれ試合形式を行った。

Aさんは「見るのとするのは大違い、ある程度のパワーやフットワークが求められるので健康維持には最高ハマリそう」と笑顔で話してく

れた。
写真 ナイススマッシュの一場面



ミニテニスは直径12センチのカラフルなボールをを使い、前後左右に変化させることができる。また、強烈なスマッシュも魅力。だから幅広い年代層に人気がある。

（仙台市 渡辺 勝利）